

令和7年度 授業改善推進プラン

国語	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○目的に応じた情報を文章や図表からの的確に選び出す力 ○表現力の向上	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 71% ○特に読むことの記述式問題において、平均正答率が 46.8%と低く、また、無解答率も 23.4%と高く課題が見られる。 ○目的に応じて文章と図表を結び付け、必要な情報を選び出す力に課題が見られる。	○児童が目的に合った情報を見つけ出し、情報の関係を考えながら整理や選択できる力を育てるために、「問い」を意識しながら文章を読む指導を行う。また、授業の中で記述練習をするなど、記述問題に慣れさせる。 ○調べたことや読み取ったことを図表や文章でまとめて発表する活動や、図表と文章を結び付けて読み解く活動を取り入れる。 ○記述式の問題に対応するために、構成メモを書かせるなど、段階的な記述指導を行う。

社会	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
	○資料から読み取ったことを様々なことと関連付けて考える力 ○学習したことから主体的な社会との関わり方を考える力	○資料から読み取ったことから、位置や空間、時間、人々の関係性などに着目し、それぞれのことを関連付けながら考える力が弱い。 ○学習したことを基に自分の生活との関連を考え、自分にできることや大切なことを考え表現する力が弱い。	○教材や資料を読み取り追究する際に、位置や空間的な広がり、時期や時間の経過、事象や人々の相互関係を問う視点を意識させる。 ○社会的事象の仕組みや働きを学んだ上で、自分の身近でどうか、自分たちはどうすればよいか、これから何が大切かなどの問いを設けて考え、表現する活動を単元の最後に取り入れる。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	全国学力・学習状況調査、 学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
算数	○課題に対して適切な表現を考え、図や式、言葉などを使って、課題を解決する力 ○新たな知識・技能を見いだしたり、それらと既習の知識とを統合したりする力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 65% ○知識・技能、思考・判断・表現の正答率は、全国平均と比べて高いものの、選択式・短答式に比べ、記述式の問題の正答率が45.8%と低い結果になった。 ○特に、知識を活用した応用問題の正答率が35%前後と低くでる問題も数題見られることから、単純な計算能力ではなく、知識を活用する力の育成が必要である。	○考えの共有の際に、児童同士の考え方の違いだけでなく、表現方法の違いにも注目させ、順序立てた説明のための表現力を育成する。 ○課題を解決するときに、これまでに学んだことを意識し、それを新しい知識と結びつけることで、より深く考える力を育成する。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・ 指導体制の工夫
理科	○問題を見出し、計画的に観察・実験を行い、問題解決する力 ○学んだことを自然の事物・現象や日常生活にかそうとする力	本校における全国学力・学習状況調査 平均正答率 58.7% ○本校における全国学力・学習状況調査(理科)の思考・判断・表現の項目において、全国平均正答率は61.2%に対して低い。また、無回答率が16.9%と高い。予想や仮説を基に、考察する力が弱い。 ○知識として事実を知っていることが多いが、日常生活に結び付ける力が弱い。	○毎回の授業開始時に、前の授業の振り返りをする。単元内の用語やポイントを、単元末に確認する。 ○個人で意見を考える時間を増やす。学習内容のポイントを明らかにし、今までに得た知識を基に説明できるように意識させる。 ○実物を見たり触れたりする機会を増やす。また、学習の流れに沿って日常生活と自然事象を結び付けられる授業を展開する。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
音楽	○表現に合った演奏をするために必要な技能 ○曲や演奏のよさを見出しながら音楽を味わって聴く力	○表現に向けた意識的な工夫や判断が育ちににくく、ただ「なんとなく」になってしまう。 ○他の感じ方や視点に触れる機会が乏しく、自分の聴き方が広がらない。	○多様な表現を認め合い正解の一つにとらわれず、他者との表現の違いを尊重する見方や態度を指導する。 ○ICTや音源を活用し、児童が表現について気付きや理解を振り返る時間を設ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
図工	○創り出す喜びを味わい、生活や社会と豊かに関わる態度 ○「造形的な見方・考え方」を働かせる力	○生活体験の個人差が大きく、道具等の扱いや、素材に触れる等実体験が乏しい。 ○児童の様々な価値観のよさを生かし、互いに学び合える意識がまだ十分でない。	○道具等の扱い方について、基礎・基本をていねいに説明し、実体験を通した指導を繰り返す。 ○自分の生活につながり、愛着をもてる課題を設定する。 ○日本や諸外国の文化を尊重しつつ、造形活動を通して互いのよさや多様な考え方を見付けられるような学びの機会を設ける。

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
家庭	○よりよい生活をするための工夫や実践的な活動をする力 ○制作や実習を通して技能を身に付けさせ、生活に役立てる力	○生活体験の個人差が大きい。調理道具や裁縫道具の扱いに関して、実体験が乏しい児童が多い。 ○家庭生活を営むうえで、家族の一員として家庭の仕事を担っていく必要があるという意識が薄い。また、授業で学習したことを実際の家庭生活に生かすことができていない。	○裁縫や調理などの実習を行う際には、実際に行う時間に向けた準備、計画を詳細に行う。また、活動の意義を児童が考えたり、きまりを守ることの必要性について考えたりする時間を設ける。 ○ペアやグループで協力して調理や製作、片付けを行う。グループの中で平等に役割分担を行い全児童が技術を身に付けることができるよう指導を行う。また、必要に応じて家庭との連絡も密にとる。

令和7年度 授業改善推進プラン

	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
体育	○特性に応じた各種の運動の行い方及び身近な生活における健康・安全への理解と、基本的な動きや技能 ○運動や健康についての自己の課題を見付け、その解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力 ○運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度	○握力について、全国平均と比較して下回っている学年があるため、力強い動きを高めること。 ○50m走について、全国平均と比較を下回っている学年が多いため、短距離走を中心に走・跳の運動(遊び)や陸上運動を充実させること。 ○低学年において、記録が全体的に全国平均を下回る傾向がみられるため、運動で行い方を理解し、基本的な動きや技能を身に付けさせること。	○「体づくり運動」を中心として力強さを高める運動を積極的に行う。教員の研修を校内で行い、実現できるようにする。 ○地面からの反発を利用した走り方について指導するとともに、自分の走り方を動画で撮影して振り返ることができるようにするなど、ICT機器を活用する。 ○体育の授業の充実をはじめ、各種体育的行事、休み時間等でボルダリングなどの学校施設の積極的な活用を計画的に進め日常的に運動ができるようにする。 ○運動の行い方について十分理解して取り組むことができるよう、掲示物など視覚情報を用いるとともに、児童同士が互いに関わり合いながら運動できるようにする。 ○友達や仲間とともに楽しく運動を行えるよう、言語環境を整える。

令和7年度 授業改善推進プラン

国際	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○相手意識をもち、既習表現を組み合わせ、会話する楽しさを味わう力 ○自己の課題を踏まえ、自己に必要な学習を選択する力	○自分の考えと、既習表現を組み合わせ、相手に分かりやすく伝えようとする力が弱い。 ○相手の話に対して相槌を打って聞いたり、反応したりしながら聞く力が弱い。 ○自己の課題に合わせて、必要な学習を選択する力が弱い。	○すすんで会話をしたいと思えるような単元のゴールを示したり、会話をする必然性を実感させたりする。 ○一人一人の発話量を確保できるような指導計画に会話の活動を設定する。 ○相手意識をもった会話の手本を示した上で十分な会話時間を確保し、相手意識をもって会話することを価値付ける。 ○歌やフォニックスを取り入れ、既習表現を定着させる。(低、中学年) ○ヘッドセットなどの ICT 機器を活用し、自己の課題に合わせて学習活動を選択できる「My Practice Time」を導入する。(高学年)

道徳	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○道徳的諸価値についての理解を基に、自己を見つめ、物事を多面的・多角的に考え、自己の生き方についての考えを深める力 ○物事を当事者として捉え、解決に向けて考え続ける力	○教材を活用し多面的・多角的に考えてきたことが、自己の生き方について考えを深めることにつながらない。道徳科の時間が、「自己の生き方について考え深める時間」という認識がなされていない。 ○様々な事象に対して、「よりよく生きる」当事者としての意識をもち、向き合い考える習慣が定着していない。	○問題解決学習を通して、問題や課題を主体的に解決するために必要な素質を養う。その際に、役割演技などの体験的な学習を通して、道徳的価値を実現するための能力を養う。 ○毎授業で、取り扱った内容や自分の考えを振り返る時間を確保する。今の自分を振り返り、その時間に学んだ価値が自らの生活にどのように結び付いているか考えさせる。

令和7年度 授業改善推進プラン

特別活動	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○多様な相手と協働して活動する意義を理解する力 ○課題を解決するために話し合い、合意形成を図り実践していく力	○課題解決のための話し合いが自分中心になり、集団として折り合いをつけて合意形成する力が弱い。	○互いのよさや可能性を考えながら、集団や自己の生活上の課題を解決できるよう学級活動等を通じて指導していく。 ○異学年交流や児童会活動、クラブ活動を通して、一人一人が活躍できる場を設定していく。その際に、児童同士のがんばりやよさに注目できるように指導する。

総合的な学習の時間	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○地域の人・もの・ことに関わる探究的な学習を通して、課題を解決する力 ○自己の生き方を考えることができるようになるための力	○自らすすんで課題解決していかうしたり、見通しをもって追究したりする力が弱い。 ○調べた情報を整理したり、選択したりする力が弱い	○児童がすすんで問題解決していかうとし、探究的な学習ができるよう、ゲストティーチャーを招いたり、校外学習を取り入れたりして問いを高める工夫をする。 ○様々なゲストティーチャーや、地域、教職員の考え方や生き方を聞く中で、自らの生き方が考えられるようにする。具体的には、タブレット端末を使用したり、他者と交流する時間を設けたりする。

生活科	育成を目指す資質・能力	学習評価等の結果に基づく課題	資質・能力を育む指導方法・指導体制の工夫
	○自分自身、身近な人々、社会及び自然の特徴やよさに気づき、共によりよい生活ができる技能 ○自分の思いを実現させるための判断を行い、身近な人々、社会や自然を自分との関わりで捉え、言葉や絵などで表現し伝え合う力	○自然と触れ合える場が少なく、動植物と関わる機会が少ない。栽培活動の体験も多くはない。 ○自分の思いをもって学習と向き合う意識は弱いところが見られる。学んだことを自分と関係付けて表現する力が弱い。	○一人一鉢を所有して、植物を育てる活動をしたり学級園を活用して野菜を栽培したりして、自然と関わりをもつ機会を設ける。その体験から植物への関心を高め、栽培や収穫する喜びが感じられるようにする。 ○学習のめあてをしっかりとめ、活動の目的を明確にすることで自分の思いを明確にする。学んだことを絵や言葉で表現し、身近な人に伝える時間を意識的に設け、お互いに学習成果物を見合えるようにする。